

総務委員会会議記録（第4号）

令和6年 3月12日

福島県議会

1 日時

令和6年 3月12日（火曜）

午前 10時58分 開議

午前 11時58分 散会

2 場所

総務委員会室

3 会議に付した事件

別添「議案付託表」（第1号に添付）のとおり

4 出席委員

委員長	高 宮 光 敏	副委員長	渡 辺 康 平
委員	渡 辺 義 信	委員	宮 川 えみ子
委員	古 市 三 久	委員	水 野 さちこ
委員	三 村 博 隆	委員	江 花 圭 司
委員	猪 俣 明 伸		

5 議事の経過概要

（午前 10時58分 開議）

高宮光敏委員長

ただいま出席委員が定足数に達しているので、これより総務委員会を開く。

これより人事委員会事務局の審査に入る。

直ちに議案の審査に入る。

本委員会に付託された知事提出議案第1号のうち本委員会所管分を議題とする。

直ちに、人事委員会事務局長の説明を求める。

人事委員会事務局長

（別紙「2月県議会定例会総務委員会人事委員会事務局長説明要旨」説明）

高宮光敏委員長

続いて、事務局次長の説明を求める。

事務局次長兼総務審査課長

(別紙「議案説明資料」説明)

高宮光敏委員長

以上で説明が終わったので、これより議案に対する質疑に入る。

質疑のある方は発言願う。

古市三久委員

総81ページ、会計年度任用職員任用経費とはどういうものか。

事務局次長兼総務審査課長

人事委員会事務局に配置されている会計年度任用職員1名の年間の人件費である。

古市三久委員

ほかの議案説明資料には、会計年度任用職員任用経費の項目はないと思うが、人事委員会事務局のみ記載があるのはなぜか。

事務局次長兼総務審査課長

管理運営費の中の管理運営事務費とは別に、会計年度任用職員の雇用経費を特出しして説明している。

古市三久委員

人事委員会には会計年度任用職員は何人いて、そのうち女性は何人か。

事務局次長兼総務審査課長

会計年度任用職員は、事務局に女性を1名配置している。

予算上は1名の配置となっている。

古市三久委員

予算上は1名だから2名程度いるのか。女性は何人か。

事務局次長兼総務審査課長

女性職員1名が配置されている。

古市三久委員

会計年度任用職員任用経費では、予算上、職員1名分を計上しているとの理解でよいか。

事務局次長兼総務審査課長

会計年度任用職員1名の1年間の予算額である。

古市三久委員

公平事務費の諸収入の公平委員会事務委託金38万4,000円について、市町村からの委託料との説明だが、この根拠は何か。全59市町村からの委託との理解でよいか。

事務局次長兼総務審査課長

公平委員会が設置されている県内5市を除いた市町村と一部事務組合等について、人事委員会で公平委員会の事務を受託している状況である。

古市三久委員

38万4,000円の根拠はあるのか。

事務局次長兼総務審査課長

委託料は1年間で一律、市が2万5,000円、町村が1万5,000円、一部事務組合が1万円の定額で設定している。

宮川えみ子委員

女性管理職の割合を増やすには、女性職員の採用数を増やしていかないとなかなかバランスがとれないと思うが、この数年間における受験者数のうち女性受験者がどのぐらいの割合で増えているのか。職員採用数の男女の割合が半々に近づかないとなかなか難しいと思うが、その対応策について聞く。

採用給与課長

女性受験者数の割合について、6月に実施している大学卒程度の試験では、令和5年度が36.7%、4年度が37.2%、3年度が35.8%で、ここ3年間、おおむね30%後半の数字で推移している状況である。

女性の受験率向上に向けた取組として、総合パンフレットやホームページ上において、様々な分野で活躍している女性職員や仕事と子育てを両立している職員の働き方の紹介、あるいは各種子育て支援制度について広報してきている。また、説明会等に女性職員を派遣し相談等に応じる対応を取っている。引き続き、こうした女性受験者数の向上に係る取組を進めていきたいと考えている。

宮川えみ子委員

採用数のうち女性の割合はどうか。

採用給与課長

今ほどの回答は、大学卒程度の一次試験を受験した女性の割合である。

宮川えみ子委員

採用数ほどの程度か。

採用給与課長

令和5年4月1日時点における合格者のうち、実際の採用人数は大学卒程度で191名であり、そのうち女性は77名で、割合としては40.3%である。

宮川えみ子委員

採用者の女性割合は、受験者の女性割合より高くなる傾向と見てよいか。

採用給与課長

令和4年4月1日時点においても採用された女性の割合は41.4%であり、近年、おおむねこの傾向が続いているものと考えている。

宮川えみ子委員

受験者数や採用職員数等が男女半々までとはなかなか難しいと思うが、女性管理職の割合は土台となる女性職員数が少なければ少ない。女性の受験率がほとんど上がらない状況については様々努力しているものの新たな努力が求められると思うが、どのように考えているか。

採用給与課長

これまでも女性の受験率向上に向けて取り組んできているが、現状は横ばいの数値である。やはり受験者が本県を受験したいと思うような施策を今後も引き続き行っていく必要があると思う。今は、女性に限らず受験者全体が減少傾向にあるため、県職員の仕事のやりがいや魅力、採用後の女性のキャリア形成についてしっかりと伝えながら、皆に受験してもらえるように今後も取り組んでいきたい。

宮川えみ子委員

採用の段階からなかなか難しい状況が見えているが、女性の県外流出が多いなど様々な問題を抱えていると思うため、その辺りはよく研究をして、少しずつでも数字が伸びるような対策を講じていかなければならない。スタートラインからなかなか進まないようでは、今後が非常に思いやられる感じがするが、その辺りはどのように考えるか。

採用給与課長

これまでの取組も含め、さらに女性に受験をしてもらえるよう今後も継続して取

り組んでいきたい。

古市三久委員

県の基本的な考え方として、女性をどのように採用するかが非常に大事だと思う。以前よりは女性は増えてきていると思うが、女性の採用者数を増やすという考え方に傾斜しているのか。

採用給与課長

女性の受験率向上の取組は続けているが、職員の採用については公平性が大前提であるため、今後も女性に向けて広報していくが、特に女性のみを重視するのではなく、福島県をよくしたいという有能な者を採用し、性別は問わずに受験者確保に努めていきたいと考えている。

古市三久委員

言っていることは分かるが、女性職員数を増やすために女性を極端に採用することが、果たしてよいのかとの問題があると思う。女性のほうが試験の点数がよいとの話も聞く。公平性の問題は様々あると思うが、今の社会環境からは女性の県職員を増やして本県のために活躍してもらうことが必要であり大事だと思うため、しっかりと議論してほしい。宮川委員が述べたように、本県から多くの女性が流出してしまう。他県に比べて圧倒的に流出する状況を止めて、人口減少問題についても対策していかないとならないと思うため、人事委員会委員長の考えを聞く。

人事委員会委員長

委員指摘の点は、人事委員会の会議においても話題となっている。女性の採用に当たっては、県職員としての一定程度の能力基準に達していれば男女の区別なく採用したい。男性枠や女性枠という採用の方法ではなく、その能力、公職として適している者は採用していくスタンスである。

本県からの女性流出については民間のデータもあり、本県には女性が働きやすい環境が十分に整っている企業が少ないことが要因ではないかと思う。

宮川えみ子委員

女性管理職の増員について、総合計画をつくるときに、目標とする女性管理職数があまりにも少ない点を指摘し、執行部において見直され2ポイント程度目標を上げた経緯がある。しかし、10年後の目標としてはそれでも少ないと改めて指摘した。人事委員会だけでは限界もあると思うため、女性の採用については、総務部と考

方を共有して努力してほしいと思うが、どうか。

人事委員会事務局長

女性管理職の割合の向上について、まずは入口段階での職員採用における女性割合の向上が必要との指摘である。県職員採用候補者試験の合否判定においては、男女の区別なく一定の能力、一定の基準に達した者を合格としているため、まずは女性に受験してもらうことが将来的な女性管理職割合の向上にもつながっていく第一歩であると考えている。

女性受験者数を増やすために、先ほど採用給与課長が説明したとおり、パンフレットにおいても女性職員が様々な業種で活躍していること、実際の説明会では、女性職員が出向き具体的に説明するなど工夫を凝らしながら、女性の職員数や受験者数の向上に取り組んでいるところである。

なお、本県からの女性流出については、勤め先として魅力のある福島県庁として女性にも選んでもらえるよう、魅力の向上を図っていく必要があると思っている。具体的には、男女問わずワーク・ライフ・バランスがかなうような柔軟な働き方改革の推進など、知事部局、各任命権者と協力しながら進めていきたい。

高宮光敏委員長

ほかにないか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

高宮光敏委員長

なければ、以上で議案に対する質疑を終結し、これより一般的事項に対する質問に入る。

質問のある方は発言願う。

古市三久委員

福島県職員採用候補者試験の受験者数の増減を聞く。

採用給与課長

受験者数の推移について、令和5年度は全職種合計で1,353名、4年度は1,417名、3年度は1,590名で、近年の受験者数は減少している状況である。

古市三久委員

採用人数の減少に比例して、受験者が少ないということか。

採用給与課長

採用予定人員は、令和5年度は500名、4年度は413名、3年度が362名で、この3年度は増加しているが、受験者は減少している。

古市三久委員

最近、公務員に対する魅力がなくなっていると言われていて、賃金もさることながら、やはり労働条件だと思う。県職員の心の病なども結構出ていて、仕事がなかなか進まないとも言われている。昔は、公務員は身分が保障されていて、応募者が殺到し倍率もかなり高かった。教職員も同じ状況だったが、今、その教職員に対する応募者が減少して、全国的にもどうにもならないような状態にある。やはり女性が魅力を持つためには、様々な労働条件を改善していかなければならないと思う。人事委員会がその労働条件にどこまで関与できるかはよく分からないが、働き方改革にしっかり取り組んでいかないと、よい人材も集まらないし、本当に大変な時代になる可能性もある。人事委員会でも改善に取り組む必要があると思うがどうか。

事務局次長兼総務審査課長

人事委員会は、職員の勤務条件に係る決定において、第三者機関として関与している。毎年の人事委員会勧告や報告において、給与のみでなく、勤務条件の改善に向けた調査を行い、目標とする数字に達するよう、任命権者に改善を求めるような取組を行っている。

古市三久委員

福島県人事委員会として、任命権者に例えば、どういうことを改善するよう求めているのか。

事務局次長兼総務審査課長

勤務条件に関しては、報告の中で一番は長時間労働の是正についてである。近年、特に東日本大震災以降、超過勤務が高止まりの状況であり、任命権者も働き方改革としてDX推進や外部委託など様々な取組を行っているが、依然として超過勤務が高い水準にとどまっているため、任命権者に対し改善を求めている。

古市三久委員

予算規模は、震災前と比べるとかなり大きくなっている。したがって、それだけ仕事が多くなっているということであり、残業時間の増加につながってくると思う。今後の復興予算の増減が非常に関わってくる問題であり、復興予算が増えれば県職員を増やさなくてはならないと思う。しかしながら予算の問題上、人員を増やさず



に他県からの応援職員や任期付職員、会計年度任用職員で辻褃合わせをしているから人が足りず残業時間が多い。特に土木部は圧倒的に予算規模が大きくなり仕事が増えていることから、基本的にはやはり人を増やす必要がある。それができなければ、仕事を減らしていくことも考えていかななくてはならないと思う。その辺りについて、もっと厳しく任命権者に求めていく必要があると思うが、どうか。

事務局次長兼総務審査課長

令和5年の報告においても、超過勤務が多い点については人事委員会としても課題として認識している。超過勤務の要因分析や管理職員による業務管理の徹底を行っても超過勤務の是正が進まない場合には、職員の柔軟な配置や必要数の確保を任命権者に対して求めている。

古市三久委員

超過勤務が多いのは土木部など特定の部署であると思うため、人員がどのようになっているのかをきちんと調査し明らかにしてほしいと思う。特に、土木部からは、予算が非常に多いが、職員が少なく仕事が進まないと何度も聞いている。県内の実態をよく調査し、人事委員会で適正な人員規模を確保してほしいと思うので、よろしく願う。

高宮光敏委員長

ほかにないか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

高宮光敏委員長

なければ、以上で一般的事項に対する質問を終結する。

これをもって、人事委員会事務局の審査を終わる。

執行部交代のため、暫時休憩する。

(午前 11時39分 休憩)

(午前 11時40分 開議)

高宮光敏委員長

再開する。

これより出納局の審査に入る。

直ちに議案の審査に入る。

本委員会に付託された知事提出議案第1号のうち本委員会所管分外1件を一括議題とする。

直ちに、会計管理者の説明を求める。

会計管理者兼出納局長

(別紙「2月県議会定例会総務委員会会計管理者兼出納局長説明要旨(当初予算)」

説明)

高宮光敏委員長

続いて、出納総務課長の説明を求める。

出納総務課長

(別紙「議案説明資料」説明)

高宮光敏委員長

以上で説明が終わったので、これより議案に対する質疑に入る。

質疑のある方は発言願う。

三村博隆委員

出1～2ページ、7会計管理費のうち指定金融機関事務取扱経費、公金収納多様化運営費について、金融機関で納める場合の県から金融機関に支払うや手数料やコンビニエンスストアなどに対する手数料と理解している。指定金融機関事務取扱経費は、令和6年度は5,700万円、5年度が1,700万円ぐらいであったかと思うが、前年度よりも大分増えた理由を聞く。

出納総務課長

指定金融機関事務取扱費の内訳としては、収納及び支払い事務に係る公金振込の手数を計上している。公金振込手数料分が、昨年度より増えたものである。

三村博隆委員

公金振込手数料の部分の差が大きいように感じるが、要因は何か。

出納総務課長

従来の手数料に加え、新たに公金振込手数料が4,000万円ほど増えている。これは、地方公共団体が債権者の口座に公金を振り込む場合、指定金融機関に振り込みを依頼しているが、総務省通知により、指定金融機関に対する適正な経費の負担及

び予算措置を求められたため、必要な経費を計上したものである。

三村博隆委員

了解した。公金収納多様化運営費については、利便性を高めるために進めてほしいが、令和6年度が530万円、5年度が990万円と6年度は大きく減っている要因は何か。また、納めるに当たって、手数料は何%になるのか。

出納総務課長

公金収納多様化推進事業について、3月から始めるための導入経費として、今年度はシステム改修などの経費を計上している。来年度は、コンビニエンスストアやスマホ決済利用時の収納代行のための委託費を計上している。1件当たりの手数料、1月当たりの基本料金がかかってくるものである。

高宮光敏委員長

ほかにないか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

高宮光敏委員長

なければ、以上で議案に対する質疑を終結し、これより一般的事項に対する質問に入る。

質問のある方は発言願う。

古市三久委員

証紙収入額が減少した理由を聞く。

出納総務課長

各部局で証紙による手数料の収入見込みを出してもらうが、来年度は申請件数が減少する見込みである。

古市三久委員

減少を見込む根拠は何か。

出納総務課長

条例により各部局で手数料を決めている。例えば、警察本部では運転免許に関する手数料があり、高齢者の運転免許更新手数料などが減少している状況である。

高宮光敏委員長

ほかにないか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

高宮光敏委員長

なければ、以上で一般的事項に対する質問を終結する。

これをもって、出納局の審査を終わる。

本日は、以上で委員会を終わる。

明3月13日は、午前11時より委員会を開く。

審査日程は、監査委員事務局及び議会事務局の審査である。

これをもって散会する。

(午前 11時58分 散会)